

対象年齢なら誰でも！ がん検診を受診しよう

がんの早期発見のため、足立区では「がん検診」をおすすめしています。

検診名	対象年齢
胃がんハイリスク検診	40歳から74歳の間に1回のみ
胃がん内視鏡検診	50歳以上2年度に1回
肺がん検診	40歳以上毎年度
大腸がん検診	40歳以上毎年度
子宮頸がん検診	20歳以上2年度に1回
乳がん検診	40歳以上2年度に1回
前立腺がん検診	60歳から64歳の間毎年

※勤務先等で同等の検診を受ける機会のある方等、検診対象外の場合もありますのでご注意ください。

上記の検診は、窓口・電子申請・ハガキでお申込みいただけます。申込用ハガキ付のご案内を、**区民事務所や図書館**でも配布しています。



子ども向け“がん”のほん

絵本	いのちのいろえんぴつ	こやま峰子/文 豊島加純/詩 絵 マイケル・グレイニエツ/絵	教育画劇
	はなちゃんのみそ汁 絵本	安武信吾/原作 安武千恵/原作 安武はな/原作 魚戸おさむ/文・絵	講談社
	ぼくのいのち	細谷亮太/作 永井泰子/絵	岩崎書店
読み物	がんのひみつ	田川滋/漫画	学研パブリッシング コミュニケーション ビジネス事業室 ひくまの出版
	金色のクジラ	岸川悦子/作 狩野富貴子/絵	
	天使のいる教室	宮川ひろ/作 ましませつこ/絵	童心社



図書館は本と人とのかけはしです。

2020年10月
図書館だより117号

毎年10月はピンクリボン月間です！
ピンクリボンとは、乳がんへの正しい知識を広め、乳がん検診の早期受診を推進する運動です。

足立区では、**乳がん検診と子宮頸がん検診**がワンコインで受診できます。詳しくは4面へ。

がんと向き合う本

日本人女性の11人に1人が発症するという乳がんですが、早期発見、早期治療によって90%以上の人が治ると言われています。

足立区では、乳がん検診を受診しやすいように検診費用を500円とするなど、早期発見、早期治療を後押ししています。

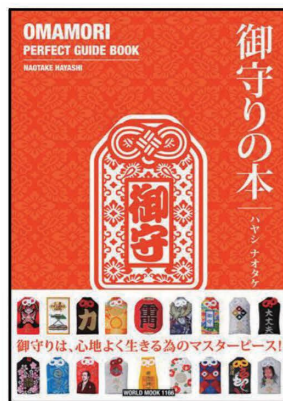
今回は乳がんを含めた、がんに関する本を紹介します。治療と仕事の両立や、治療の副作用で生じる外見へのケアなど、様々な視点からピックアップしました。

この機会に改めてがんについて考えてみてください。

図書館名	所在地	電話番号	図書館名	所在地	電話番号
中央	千住5-13-5	03-5813-3740	新田	新田2-2-2	03-3912-1767
伊興	伊興2-4-22	03-3857-8501	竹の塚	竹の塚2-25-17	03-3859-9966
梅田	梅田7-13-1	03-3840-4646	東和	東和3-12-9	03-3628-6203
興本	興野1-18-38	03-3889-0370	舎人	舎人1-3-26	03-3857-0771
江南	小台2-4-18	03-3913-0460	花畑	花畑4-16-8	03-3850-2601
江北	江北3-39-4	03-3890-4488	保塚	保塚町7-16	03-3858-1553
※1佐野	佐野2-43-5	03-3628-3275	やよい	中央本町3-15-1	03-3852-1433
※2鹿浜	鹿浜6-8-1	03-3857-6551	※1 2020年12月まで休館予定 ※2 2021年7月まで休館予定		

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部サービスを制限し、開館しております。また、ご来館の際に、入館票の記入をお願いしています。皆様に安心してご利用いただくため、何卒、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

私の読書通帳から



日本全国（+ハワイ）津々浦々の寺社の御守り袋をオールカラーで紹介した本です。

御朱印帳（御朱印ではありません。念のため）集めが目下の趣味で、ネットでチェックしては、好みの御朱印帳を求めて東奔西走している私も、御守り売り場の前は素通りでした。本書をめくりながら改めて、そのデザインのクオリティの高さに驚き、すっかり魅了されました。

筆者は冷やかして御守りを扱っているわけではなく、成り立ちや取り扱いの作法など、丁寧に説明しています。正直、初めて知る内容も多く、「へえ〜」の連発でした。

御守り欲しさに、それまで名前も知らなかった神社や仏閣に足を運ぶ。これも一つのご縁だと思います。とは申せ、神様・仏様へのご挨拶はくれぐれもお忘れなきよう。

（文/足立区長 近藤やよい）

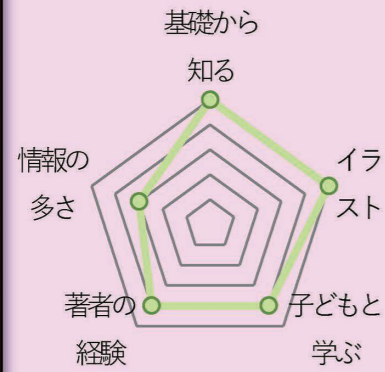


『御守りの本』
ハヤシナオタク/著
ワールドフォトプレス

足立区立中央図書館発行 足立区千住5-13-5 TEL 03-5813-3740
<https://www.city.adachi.tokyo.jp/bunka/library/index.html>



知る

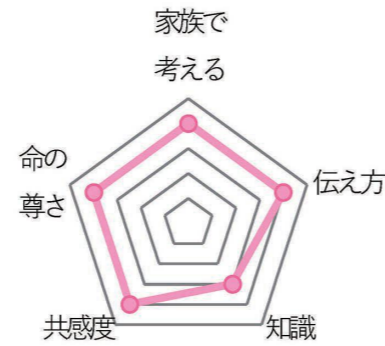


『よくわかるがんの話 1 がんってどんな病気?』

林和彦／著 保育社

父親をがんで亡くした経験から医師となり、がんと向き合ってきた著者が豊富な知識で、分かりやすく解説しています。全3巻のうち、がんのあらましを知ることができる第1巻をご紹介します。イラスト入りで読みやすく、お子さんと一緒にがんについて学ぶ際にはおすすめの一冊です。

寄り添う

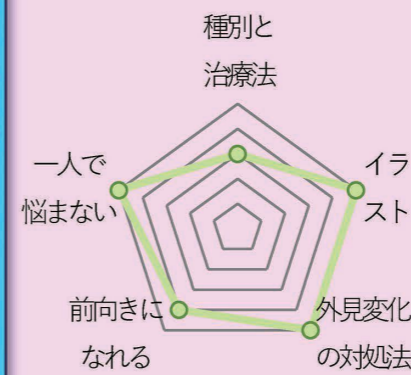


『がんになった親が子どもにしてあげられること』

大沢かおり／著 ポプラ社

あなたは自分ががんになったとしたら、お子さんにそれを伝えますか？本書では、医療ソーシャルワーカーが子どもにがんを伝えるポイントや子どもの発達に応じた伝え方を教えてくれます。つらい体験も子どもにとっては成長の機会になると教えてくれる一冊です。

女性とがん

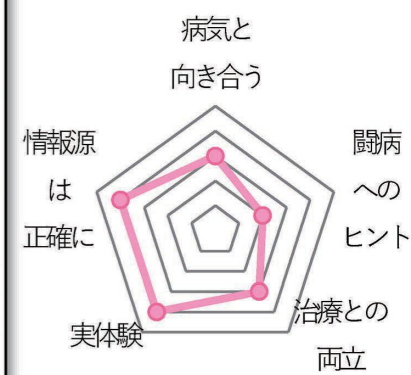


『女性のがん 外見ケア 治療中でも自分らしく』

分田貴子／著 法研

がんは治療方法によっては、身体への副作用が生じ、外見にも影響することがあります。副作用による見た目の変化とそのケア方法について、Q&A方式で丁寧に解説。「治療中もオシャレしたい」「今まで通り外出したい」という気持ちを後押ししてくれる一冊です。

がんと仕事



『がんを生きぬくお金と仕事の相談室』

辻本由香／著 河出書房新社

ファイナンシャルプランナーである著者が、「がん治療と仕事の両立はできないのか」「家のローンは支払うことができるのか」など、がんになった場合のお金や仕事に関する悩みを解決してくれます。著者の乳がん体験も踏まえた専門的なアドバイスが魅力の一冊です。



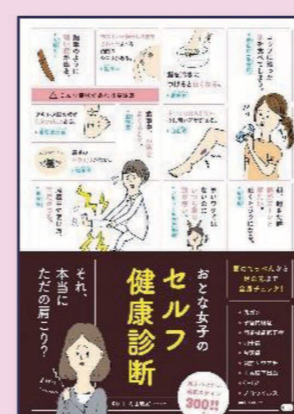
『国立がん研究センターの正しいがん検診』

中山富雄／監修
小学館クリエイティブ



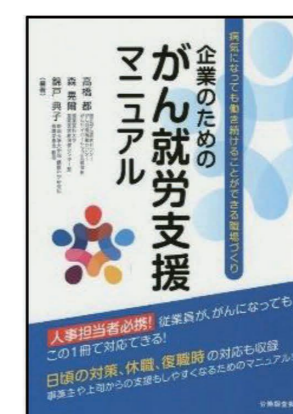
『がんばりすぎない、悲しみすぎない。「がん患者の家族」のための言葉の処方箋』

樋野興夫／著
講談社



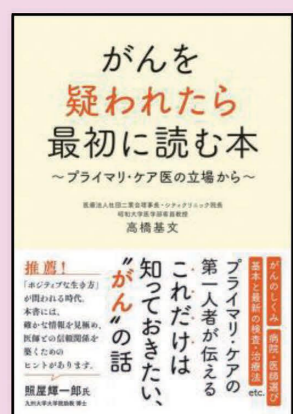
『おとな女子のセルフ健康診断』

内山明好／監修
G.B.



『企業のためのがん就労支援マニュアル 病気になっても働き続けることができる職場づくり』

高橋都／編著
森晃爾／編著
錦戸典子／編著
労働調査会



『がんを疑われたら最初に読む本 プライマリ・ケア医の立場から』

高橋基文／著
クロスメディア・パブリッシング



『親ががんになったら読む本 心に寄り添い回復を助ける』

山口建／著
主婦の友社



『女性のがん心のケア がん患者さんと家族のための診療室』

大西秀樹／著
つちや書店



『がん経験者のための就活ブック サバイバーズ・ハローワーク』

HOPEプロジェクト・CSRプロジェクト／編
合同出版